

喘息児リンパ球の、 α -、 β -adrenergic 及び cholinergic receptor の機能評価—Active E-RFC を指標として

京都大学小児科 三 河 春 樹
久 保 田 優

喘息児リンパ球の、 α -、 β -adrenergic および cholinergic receptor の機能を、Wybran らの active-E-rosette forming cell (以下 Active E) に対する影響を指標として検討した。型のごとく Ficoll-Conray を用いて分離した健康人末梢血リンパ球では、 α -adrenergic (*l*-phenylephrine), cholinergic (carbachol) agent 刺激により対照に比し、Active E は増加し、 β -adrenergic (procatamol) agent により、Active E は、減少した。喘息児リンパ球では、procatamol に対する反応性は、低下している者が多く、一部には反応が逆転して、Active E が増加する者があった。また、carbachol 刺激に対しても、健康人の至適濃度では、反応の低下、逆転する者が存在した。さらに、dose-response を検討したところ、Active E 増加をきたす至適濃度がより低濃度へ、shift していることが判明した。一方、*l*-phenylephrine に対する反応は、比較的良く保たれていた。喘息児リンパ球における上記反応異常と、患児の年齢、治療様式、IgE 値等の間に有意の相関はなかった。

アレルギー性鼻炎やアトピー性皮膚炎の患児リンパ球

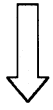
の一部にも、procatamol や carbachol に対して異常反応を呈するものがあり、これは喘息を初めとするアトピー性疾患の heterogeneity を示していると考ええる。喘息児における receptor 機能異常が、体質上のものか、 β -stimulant 等の薬剤投与による後天的なものかを鑑別するため、健康成人に1週間 β -stimulant (procatamol) を投与し、その前後の薬剤反応性の変化を検討した。投与前は、まったく正常パターンを呈した健康人例でも、投与1週間目には、procatamol により、Active E の増加、carbachol の dose response curve の低濃度への shift と、喘息児リンパ球に類似した反応を示した。この事実は、喘息児リンパ球の上記反応異常が、 β -stimulant 投与の結果である可能性を示唆する。一方、長期間、 β -stimulant の投与を受けていない喘息児や、 β -stimulant 投与の既往のない他のアトピー性疾患においても、異常反応を呈するものが存在することより、その constitutional な側面も完全には否定できない。今後さらに症例数をふやし、また、リンパ球の α -、 β -receptor を直接カウントする方法も合わせて、検討を重ねたい。

細胞融合法による IgG サブクラス特異抗体の作製

京都大学小児科 三 河 春 樹
細 井 進

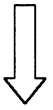
気管支喘息およびアトピー性皮膚炎における IgG 免疫グロブリンの役割については明らかにされていない。この原因の一つとして、特定の抗原に対する特異 IgG 抗体の測定が容易でないことがあげられるが、IgG 免疫グロブリンの生物学的機能が、サブクラスに

よって異なっていることが最も重要であると考えられる。たとえば、血清中の特異 IgG 抗体は、抗原と IgE 抗体への結合に対し、競合し得るが、一方 IgG 4 抗体は、肥満細胞に結合し得るため、そのレアギン活性も考えられる。IgG サブクラス特異抗体を作製することにより、



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



喘息児リンパ球の, α_1 , α_2 adrenergic および cholinergic receptor の機能を, Wybranらの active-E-rosette forming ce11(以下 ActiveE)に対する影響を指標として検討した。型のごとく Ficon-Conray を用いて分離した健康人末梢血リンパ球では, α_1 adrenergic(l-phenylephrine), cholinergic(carbachol)agen 刺激により対照に比し, ActiveE は増加し, α_2 adrenergic(procaterol)agent により, ActiveE は, 減少した。喘息児リンパ球では, procaterol に対する反応性は, 低下している者が多く, 一部には反応が逆転して, ActiveE が増加する者があった。また, carbacho1 刺激に対しても, 健康人の至適濃度では, 反応の低下, 逆転する者が存在した。さらに, dose-response を検討したところ, ActiveE 増加をきたす至適濃度がより低濃度へ, shift していることが判明した。一方, l-phenylephrine に対する反応は, 比較的良く保たれていた。喘息児リンパ球における, ヒ記反応異常と, 患児の年令, 治療様式, IgE 値等の間に有意の相関はなかった。